

下肢静脈瘤という病気

「**下肢静脈瘤(かしじょうみゃくりゅう)**」とは足の静脈が瘤(こぶ)のようにふくれる病気です。日本では1000万人以上の患者さんがいると推測されていますが、年齢や体質のせいとあきらめて我慢して過ごす方が多いかと思えます。命にかかわることは少ないですが**自然に治ることはなく徐々に進行して足をおかしていくこともある**ため軽視できない病気です。

最初は血管がふくらんでいるだけですが進行すると、むくみやだるさ、夜に足がつるといった症状が出てきます。瘤が破れて出血したり炎症を起こして赤く腫れて痛むこともあります。しかし一番の問題は皮膚がおかされることです。足がうっ血し長い年月をかけて皮膚が黒くなったり硬くなりかゆみが続き、最後にはぼろぼろになった皮膚から汁が出て大きな穴があいたり腐ってくることもあります。こうなるとなかなか治らないため早めの診断と治療が望ましいです。

治療法は色々ありますが、根治には手術が必要です。済生会山口総合病院では以前からレーザーや高周波を用いた**血管内治療**を積極的に行っています。2011年から保険適応となっているため手術費はこれまでとあまり変わらず、**日帰りもしくは一泊入院で済みます**。また血管内治療が困難な静脈瘤でもストリッピング手術を局所麻酔で行っており痛みが少なく一泊入院で済みます。傷の大きさも大半を専用フックを用いて2ミリ以下の小さな傷で行っています。

済生会山口総合病院は山口県でトップクラスの手術実績があります。

済生会山口総合病院

血管外科 外来
月曜・水曜 午前中

下肢静脈瘤 専門外来
(担当医 齋藤 聡)
水曜 午前中

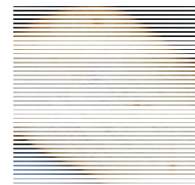
お問い合わせ(代表)

TEL 083-901-6111 FAX 083-921-0714

下肢静脈瘤の重症度

軽症

1段階 毛細血管の拡張
この時点では特に治療は必要ありません。



2段階 静脈瘤
緊急の治療は必要ありませんが、将来的に症状が出てくる可能性があります。



3段階 むくみやだるさの出現
年々悪化していく恐れがあり治療を行うのが望ましいです。



4段階 皮膚が黒くなりかゆくなる
ばい菌がつくと急激に悪化することもあり、早めの治療が必要です。



最終段階 皮膚に穴があき腐ってくる
治療に長い月日がかかってしまいます。こうなる前に治療を行うのが望ましいです。

重症

治療法の比較

ストリッピング手術

古くからなされている治療法で、足の付け根や膝下など何力所かに傷をつけ、血管の中にワイヤーを通して静脈瘤を引き抜く方法です。

利点: 効果が確実で安定している

欠点: 傷が大きい、入院が必要、術後の痛み(*)

(*)当院では最新の方法により少ない痛みと小さい傷で日帰りもしくは1泊入院の手術が可能です。

レーザー治療(血管内治療)

2011年から保険適応となった治療法で、静脈の中にカテーテルを入れて内側からレーザーで焼きつぶす方法です。2014年には改良されたレーザー機器や高周波機器が登場し、より痛みが少なくなりました。現在主流の治療法で、当院でも積極的に行なっています。

利点: 傷が小さい 手術時間が短い 痛みが少ない

欠点: 静脈瘤が太い場合など不向きなケースがある、